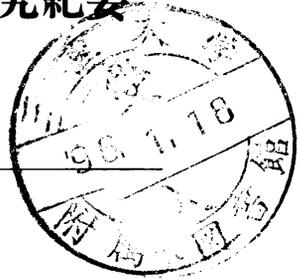


人文論叢

三重大学人文学部文化学科研究紀要

第 11 号



目 次

論説

社会学におけるモデル構築の課題
 —— 抽象性(単純さ)と実在性(複雑さ)のアポリアを
 如何にして解決するか ——久慈 利武(1~ 18)

近世小氷期の気候復元
 —— 天明期から天保期まで ——水越 允治(19~ 27)

華文文学の方向性
 —— 試論、求心力と独自性 ——荒井 茂夫(29~ 44)

ヒマラヤ・チベット山塊東南部における埋没土壌の形成環境と
 民族移動.....岩田 修二(45~ 62)

近代報刊小説與読者の閱讀方式.....李 慶國(63~ 70)

品詞分類とドイツ語の副詞.....井口 靖(71~ 87)

レッシングの寓話論 (その二)太田 伸広(89~100)

日本におけるドイツ詩の翻訳と受容 (独文)宇京 早苗(101~108)

ヴァイスマンの死の解釈をめぐって.....小川眞里子(109~123)

マーティン・ルーサー・キング,Jr.の思想的深化と「第三世界」
 —— 「勝利」後の闘いに焦点を当てつつ ——川島 正樹(125~141)

創作ソネットからの抜粋 (英文)スコット・R・リッター(143~153)

兼好の言語規範意識の一側面
 —— 『徒然草』第百六十段 (門に額かくるを) を手懸りとして ——
山本 真吾(一 ~ 四)

徐陵の駢文について.....道坂 昭廣(三 ~ 六)

魂についての序章.....松井 良和(七 ~ 三)

「燕子樓詩」をめぐって
 —— 妓女詩人關盼盼に関する『唐詩紀事』の虚構性を問う ——西村富美子(一 ~ 五)

研究ノート
 移行期の近隣社会
 —— カナダ・トロント市中心部におけるコミュニティーの変化 —— (英文)
廣松 悟(155~171)